国立国語研究所学術情報リポジトリ

平成16年度日本語教育上級研修報告

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 国立国語研究所 公開日: 2019-03-05 キーワード: 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/1898

平成16年度日本語教育上級研修報告

1. 目的

「日本語教育上級研修」は，広く日本語教育に関する職務に携わっている現職者を対象として，「多様化」に現実的に対応し得る人材の養成を目指し，平成13年度より新たにスタートしたプログラムである。

具体的には，様々な立場の現職者が集まり，各自の現場で見いだした問題を出発点として，その現状を分析的に把握し，問題意識を深め，各自が課題として取り組むことを通して，日本語教育改善のための視点・専門的知識・能力を身につけることを目的とする。

さらに，研修参加者は，参加者同士の共同作業や相互交渉を通じて，自らの日本語教育を様々な視点からとらえ直し，各分野における協力体制の構築と，分野を超えたネットワークが広げられる人材となることを目指す。

2. 期間

平成16年5月8日～平成17年3月11日

3. テーマ

「教育内容の改善・教育環境の整備のための方法」

上記のテーマのもと，各々が日本語教育現場における実践・研究等から見いだした具体的課題を追求する。

4. 募集対象

(1) チーム応募

原則として2～5人の研修チームを構成して，上記3. のテーマに関連する課題を設定し，応募する。

(2) 個人応募

上記3. のテーマを追求するために「授業の観察と分析」を課題とする。個々に重点的に追求する分野・側面等を副題として設定し，個人で応募する。個人単位の応募であるが，「授業の観察と分析」を共通課題として，個人参加者によるグループとして研修活動を行う。

5. 研修概要

＜研修の基本方針＞

(1) 本研修では，以下の3つを柱として活動を行う。

①教育現場における具体的な問題について，参加者自身が理解を深め，自らの実践を改善する。

②相互交渉・共同作業をとおして，自らの課題を追求する。

③他者との連携のために，情報の収集・発信・共有等の方法を模索し，実践する。

(2) 本研修は，チーム応募，個人応募にかかわらず，個人を研修生として受け入れるものとする。

(3) 研修生は，国立国語研究所内外の人的及び物的なリソースやネットワークを積極的に研修活動に活用する。研修活動が円滑に進むよう，研修担当者は活動の内容や方法に関する助言，リソースの提供等必要な支援を行う。

＜研修活動の内容＞

(1) 研修生は国立国語研究所の研修担当者との間で，原則として毎月1回，定例会合を持つ。会合は原則として国立国語研究所で行う。チーム参加の場合，具体的な日時を研修チームと研修担当者との調整によって決定する。個人参加者のグループの場合，定例会合は原則として第2土曜日に実施する。定例会合では，それぞれが進めてきた文献研究，情報収集，計画案の作成，データ収集，実践的検討等の結果報告を受けて，次の活動の進め方について研修担当者とともに検討する。なお，研修スタッフは第2土曜日に，必要に応じて外部講師等による研修レクチャーを開催する。

(2) 研修生は，チームごとに，あるいは共同で，以下のような会を企画・実施する。

①課題に関する自主研究会等（研修の進行にあわせて随時実施）
②中間発表会（半公開）
③修了報告会（公開）
(3) 研修生は，以下のものを作成し，提出する。
①定例レポート：研修活動の進行にあわせて定期的（月1回程度）に作成し，活動の進ちょく状況等についての内省・共有・検討のために利用する。
②修了レポート：研修成果をまとめる。
③ダイアリー：研修の活動を通じ，「学んだこと・考えたこと・感じたこと」をダイアリーにまとめる。個人別に自由に記述し，定期的に提出する。定期的な記録・読み返し・分析により，問題点の発見・改善に役立てる。

6. 全体の経過

5月 8日：オリエンテーション・研修課題発表
＊定例会合・メーリングリスト等の開始
9月 5日：中間発表会
2月10日：修了レポート提出期限
3月11日：修了生修了通知
（4チーム11名・個人3名）
3月16日～27日：修了面接
5月 7日：修了式・修了発表会

レクチャーシリーズ
5月 8日
第1回：「研究はいかに実践に関わり得るか」
西口光一氏（大阪大学）
5月17日
第2回：「授業を見る—その1—」
金田智子氏（国立国語研究所）
6月12日
第3回：「授業を見る—その2—質的研究を探る」
文野峯子氏（人間環境大学）
7月10日
第4回：「言語学習に対する動機付け」
小西正恵氏（立正大学）

7. 修了レポート

＜チーム参加＞
(1)「かささぎチーム」権藤早千葉・井料洋美（久留米大学国際交流センター）
題目：「初級課程を修了しても会話が苦手な学習者に必要な会話練習の項目作成の実践報告」
(2)「あけぼのチーム」吉田聖子・高木眞美（あけぼの会日本語教室）
題目：「日本語教室における学習者どうし教師どうしの学びあい—「振り返りの話し合い」と「学びあう話し合い」—」
(3)「聞き手のお仕事チーム」小竹紀子・横山奈緒子・井上洋輔（ラボ日本語教育研修所）
題目：「中級後半学習者のための会話授業—聞き手の役割に注目した会話授業およびそのフィードバックの考察—」
(4)「はじかみチーム」中村和弘・松尾恵美・増田アヤ子・野口百合英（カイ日本語スクール）
題目：「教育環境改善のための教師の受信力と発信力の向上—教師の意識や態度の変容を目指す—」
＜個人参加＞
(1) 海老名みさ子（NPO法人外国人の子どものための勉強会）
題目：「みんなで話し合う・書く・読み合うなかでつける自己表現力」
(2) 佐藤有理（アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター）
題目：「ライティング授業の分析—協働推敲と個人指導のちがい—」
(3) 松本啓子（東京都世田谷区立梅丘中学校）
題目：「理科の授業における教師・生徒の言葉の相互作用と科学的な思考力の深まりについての研究—JSLカリキュラムの活用によるJSL・帰国生徒に配慮した一斉授業を通して—」

（記：小河原）